

ブルースター



この学年通信の名前は2組の■■さんが考えてくれました。この青学年が星のように輝き、学校を引っ張っていただけますように。そしてブルースターはメインの花ではなくて、脇役的な存在。輝くだけではなく、裏でも支えていける学年になりますように…。花言葉は「信じあう心」。クラスメイトを信じながら、行事や受験に向かって進んでいけますように…という思いが込められています。

先日、タワーホール船堀へ向かう途中、親水公園沿いの道を走っていると綺麗な鳥が。何度か紹介したカワセミ。青い背中が特徴的な狩りの名人。探してみても



来週の予定



日	曜	学校行事等	持ち物・提出物
3	月	50分授業×6 朝礼 ①学活（朝礼後志願変更説明）	白衣
4	火	50分授業×6 避難訓練	
5	水	50分授業×5 ⑤道徳	
6	木	50分授業×6 牛乳パック回収 ⑥総合	
7	金	50分授業×6 1年生校外学習 ⑥総合（私立一般入試前日指導） テスト範囲配布	白衣持ち帰り

※ 進路に関わる重要なお知らせは、t e t o r u にてその都度お知らせしますのでご確認ください。

お詫び

前号でお知らせした、江戸川区合同展覧会の出品者紹介で、3組の■■■さんが家庭科作品で展示されていたにもかかわらず、紹介されていませんでした。お詫びして訂正します。

理科小テスト（天体）満点者！！ 敬称略

先週行われた小テストで満点を取った12名です！！気がつけば冬至からひと月以上が過ぎ、暗くなるのも随分と遅くなってきました。通勤時に見かけるオリオン座の位置も、北斗七星の位置も変わってきたことに気がきます。何より、朝に校門の前で挨拶をしていると、道路を挟んだお寺側の建物の影が少なくなったこと。知識があると（自分じゃないよ）、日々のちょっとした変化に興味や価値を見い出せるもの。よく頑張りました！！



- 1組
- 2組
- 3組
- 4組



～ある新聞社の社説から～ 何やら誤解を招いたようで(・_・)

先週掲載した小学校受験の社説。あれは新聞に載っていた記事です。どうやら、菅原の幼少期の事と勘違いされている方が…。あたしゃ、幼稚園も保育園もいっておらず、小学校入るまで自分の名前を書くことさえできない、生粋の無学でやんす。小学校のお受験なんて…。それでも教師になれたのだから、みんな自信を持っておくれ！！

裏面に続く

都立推薦合格発表を迎えて

今日は都立高校推薦入試の合格発表日です。本校からは15名の方が12校の学校に受験しました。合否の結果はわかりませんが、今日の8:30にWeb上で発表される結果に、一人でも多くの人の受験番号があることを祈るばかりです。しかし、合格する人がいるということは、残念ながら不合格になってしまう人もいます。こればかりは定数が決まっているので仕方ありません。以前、足立区の学校に勤務していた時にこんなことがありました。ある生徒が、練馬区にある高校を推薦制度で受験しました。しかしながら、その生徒は小論文が規定された字数まで書けなかったらしく、面接も芳しい内容ではなかったそうです。結果は残念ながら不合格となりました。当初の予定では、推薦入試に不合格だった場合、再度同じ学校に一般入試で受験する予定だったのですが、その生徒は推薦入試に不合格になってしまったことでショックを受け、翌日から学校に登校することが出来なくなってしまいました。保護者の方も進学を絶対とは思っていなかったことも、その状況を打開するに至らなかった原因かもしれません。結果、その生徒は、定時制の2次募集を選択し卒業していきました。実はその生徒というのが、2年生の夏に転入してきた、バスケットボール部の教え子でした。学力はお世辞にも高いとは言えなかった人ですが、明るく運動能力は高く、区の連合陸上では笑いながら長距離で1位になるような生徒でした。その当時の足立区は陸上部に強豪校が多く、長距離で有名な私立の高校から陸上部員としてのお誘いがあるくらいで、本人が志望していた都立高校のバスケットボール部顧問からも、是非来てほしいと言われていました。実際、その高校は一般入試で定員割れを起こし、受験さえすれば入学できたはずでした。担任の先生は経験の浅い方だったこともあり、顧問としてもっと口出ししていればと思った時には手遅れでした。今でも推薦入試の発表時期になると毎年思い出します。定時制が駄目と言っているわけではありません。ただ、自分の志望していた進路の可能性が残っていたのに、その道を諦めてしまうような結果になったことが残念でならないのです。もし、志望校に進学していたら、また別の人生があったのではと思うのです。推薦入学は半分以上の人が不合格になることが多い入試制度です。その結果に自分の心が揺れるのではなく、もう一度心を引き締め、一般入試に向けての決意を持ってほしいのです。そして、皆で希望を勝ち取れるように、全員で頑張っていきましょう。

学年主任のつぶやき

先週末、部活も終わって川口駅前にある献血へ。駅前では譲渡猫が沢山いて、こんな人相の悪いおっさんが眺めていても、猫はあくびをしたり寝ていたり。そんな猫たちにサヨナラして献血ルームに入るとテレビ放映がされていた。画面には大相撲の千秋楽。いつもならバラエティ色が強い番組を放送していることが多いので、珍しいなと思ったら、テレビ前で食い入るように画面を見つめる男性がいらっしまったので、きっとスタッフさんにチャンネルチェンジをお願いしたのだろうと合点がいった。画面いっぱいには迫力のある取り組みが進んでいく。小さい頃、世話になったおじさんの家に行くと、いつも相撲を見ていた気がする。前理事長の北の湖親方が現役時代で、輪島、貴ノ花（先代）や、千代の富士が始めだった時代。いつも上位陣が揃って勝ち越していたのを覚えている。近年は、相撲協会を揺るがす八百長問題で大揺れに揺れた相撲界だけれど、今の人気は真剣勝負を望むファンと力士の皆さんの努力のおかげだろう。今場所も場所後に横綱昇進が決まった豊昇龍が随分と久しぶりの巴戦（同率力士3人が優勝をかけて戦う）を制して優勝。こちら久しぶりの日本人横綱が期待された琴奨は負け越して、来場所はカド番（負け越すと大関陥落）となる。以前は負け越しそうになると、八百長試合があったと前述の混乱の際に報道されたから、最近はそんなこともなく、ここ数年でも何人かの大関が陥落している。とここまで相撲の話の長々と続けてきたので、興味のない人はこれを読む前に読むのをやめると思うが、千秋楽の画面に限らず、大相撲中継を見ていると有名人が画面に映りこんでいて話題になることもしばしば。今回は力士が土俵入りする際に通る花道（これ、歌舞伎由来の言葉）脇に、武田鉄矢さんと川上麻衣子さんが！！保護者の方々はわかると思うけれど、「金八先生」の教師と教え子という、気付いた人は笑えるシチュエーション。案の上、SNSにも話題になっていた様子。画面の向こう正面には鈴木宗男議員がしっかりスーツ着て観戦してるし、大相撲中継のちょっと変わった面白さでもある。取り組み後に映し出されるスローモーションでは、たびたび武田鉄矢さんが驚いたように口を開けたり、笑ったり、そんな場面が映し出された。相撲好きの芸能人は多くいて、土俵近辺で見かけることも多い。相撲の評論でもお馴染みの聖飢魔IIのボーカル、デーモン小暮閣下はあのメイクで観戦されると、会場がざわついて力士が相撲に集中できないとの理由で、相撲協会からダメ出しを出されたいらしい(大爆笑) L G B Tの理解が深まるこの時代。いつか10万歳を超える悪魔が土俵際で観戦する姿を見てみたいものだ。